
北翔大学 未来プロジェクト
第4期 中期計画 (2021.4—2026.3)



理事長メッセージ

本法人は、1939（昭和14）年の北海ドレスメーカー女学園の創立以来、80年以上にわたり専修学校、短期大学、大学及び大学院の運営を行い、高等教育機関としての役割をしっかりと果たして参りました。この間、専修学校 37,278 名、短期大学 31,044 名、大学 8,736 名、大学院 257 名、合わせて 77,315 名の卒業生・修了生を輩出し、その国内外での活躍は高い評価をいただいております。そして、2019（令和元）年度からは、専修学校を姉妹法人ともいえる学校法人北海道浅井学園に移管し、本法人は学校法人北翔大学として新たなスタートを切っております。

本計画は、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの第4期中期計画に当たりますが、これまでの第3次中期計画（2016～2020年度）の達成状況の評価を踏まえ、そのスタイルも変えて北翔大学未来プロジェクトとしてより具体的に本学の進むべき道を提示いたしました。

本計画を推進していくためには、教職員が一致協力して計画の達成に向けて取り組んでいくことは当然であります。加えて、学生や保護者の皆様とも一緒になって、さらには、行政や地域の方々などのご協力をいただきながら、文字通り北海道で大きく飛翔する北翔大学を作りたいと考えております。

当然のことながら、新型コロナウイルス感染症対策を徹底していきながら本計画の達成に努めて参ります。



学校法人北翔大学
理事長 青木 次郎

学長メッセージ

この度、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの第4期中期計画を策定いたしました。北翔大学は、皆さんも周知のとおり1939（昭和14）年の北海ドレスメーカー女学園創立に始まり、以来80年以上にわたり、高等教育機関として地域社会を勇気づけ地域社会を豊かにする人材を輩出してきました。これからも地域の課題や要請を受け止め、その解決のために教育・研究活動を展開し、地域の方々に信頼される大学を目指して参ります。

本計画は、これまでの第3次中期計画（2016～2020年度）の達成状況の評価を踏まえ、教職員によるプロジェクトチームを編成し、全教職員の意見をくみ上げ、今後本学がどのような大学を目指すのかを、「教育・研究」「学生支援」「管理・運営」「地域連携」の4つの視点から考え、具体化したものであります。その根底には、学生一人ひとりが社会で生き生きと活躍する姿をイメージしています。

本学は、これまでも、そして現在も、さらにこれからも学生、保護者、そして本学の教育・研究活動へのご理解ご協力をいただいている関係者の皆様のご支援を得ながら、学生一人ひとりの目標実現のために、この計画をもとに教職員が一体となって学生に寄り添い、高等教育機関としての使命を果たして参ります。

最後になりますが、2020（令和2）年1月に感染が確認された新型コロナウイルス感染症により、全世界が震撼しています。私たち一人ひとりがしっかりとできることを行い、全教職員が一致してこの困難を克服していきたいと考えています。



北翔大学
学長 山谷 敬三郎

CONTENTS

- ◆ 理事長・学長メッセージ
- ◆ CONTENTS・HISTORY

第1部

- ◆ 建学の精神、教育の理念、ブランドステイトメント
- ◆ 目指すビジョン

第2部

- ◆ コロナ禍対策・4つの重点項目
- ◆ 重点項目Ⅰ 教育・研究
教育充実計画・研究推進計画
- ◆ 重点項目Ⅱ 学生支援
学生生活支援計画・キャリア支援計画
- ◆ 重点項目Ⅲ 管理・運営
経営基盤安定計画・キャンパス整備計画・
入学者受け入れ計画・大学広報計画
- ◆ 重点項目Ⅳ 地域連携
地域連携計画・地域貢献計画

HISTORY

- 1939・北海ドレスメーカー女学園創立
- 1951・準学校法人に組織変更許可
- 1957・学校法人浅井学園に法人名変更
- 1963・札幌市に北海道女子短期大学開学
- 1966・江別市の現在地に北海道女子短期大学移転
- 1997・北海道女子大学開学、北海道女子大学短期大学部に校名変更
- 2000・北海道浅井学園大学、北海道浅井学園大学短期大学部に校名変更
- 2001・北海道浅井学園大学大学院修士課程開設
北方圏学術情報センター開設
- 2004・北方圏生涯スポーツ研究センター開設
- 2005・浅井学園大学、浅井学園大学短期大学部に校名変更
- 2007・北翔大学、北翔大学短期大学部に校名変更
- 2019・学校法人北翔大学に法人名変更
- 2021・北翔大学大学院博士後期課程開設

第 1 部

- ◆ 建学の精神、教育の理念、ブランドステイトメント
- ◆ 目指すビジョン

私立学校法の改正や高等教育への修学支援制度導入など、高等教育を取り巻く状況が大きく、そして急速に変化してきました。こうした背景の中で、本学では第4期中期計画の検討を進めていくにあたって原点に立ち返り、「建学の精神」と「教育の理念」をその歴史や創立者の思いを含めてしっかりと確認するところからはじめました。そして、改めて建学の精神には本学が存在する意義がしっかりと明示されていること、教育の理念は日常の中で確実に実践されていること、北翔大学らしさとは何かを確認することができました。

第4期中期計画では、「建学の精神」と「教育の理念」を改めて尊重していくことを確認しながら、①教育・研究、②学生支援、③管理・運営、④地域連携の4つの重点項目に取り組み、課題を整理し、その実現に向けて教職員一体となり取り組んでまいります。

全ての北翔大学スタッフが共通の認識を持ち協働し未来へ向かうため、さらに北翔大学と社会との約束として、北翔大学のあるべき姿、目指す大学像を「ブランドスローガン」「ステイトメント」として掲げます。

「建学の精神」

[今日的定義]

常に変化する社会に向かって真摯にかつ創造的に対応できる人材の輩出を目指し、より高い専門性と幅広い教養を身に付けた、自立できる社会人を育成していく

* 本学園は女子専門学校を創立し女子短期大学、女子大学を併設し、その後男女共学制への移行や大学院の設置などの経緯を踏まえ、「建学の精神」の持つ本旨を今日的定義に敷衍し2017年(平成29年)に表記の通り定義しております。

建学の精神

「女性の社会的地位の向上を目指し、
女性に相応しい職業的技能と幅広い教養を身に付けた、自立できる社会人の育成」

1939(昭和14)年、本学の母体となった北海ドレスメーカー女学園創立時に定められ、男女問わず一人ひとりの学生の育成に対して、「今日的定義」とともに尊重され受け継がれます。

- ・時代や社会状況、ニーズを的確にとらえたからこそ今の北翔大学があります。
- ・幅広い教養と専門性を身に付けた人材を育成し続けたからこそ、短大・大学への発展へ繋がりました。
- ・このような人材を多く輩出したからこそ、今も多くの人々に支えられているのです。

これからも、このような人材を育て社会に輩出していくことはもちろんですが、私達自身がこの精神を忘れず、行動していかなければならないということなのです。

「教育の理念」

「愛」と「和」と「英知」

「愛」 他者へ寄り添える温かい気持と感謝する心を持つこと。

「和」 調和をはかり、協働することができること。

「英知」 現実を分析し、解決できる力を持つこと。

人や社会に寄り添い、人とともに考え、より良い答えを導き出すための知識や技術を持った人材を育成することこそが、建学の精神にもとづく教育の理念を実現することになります。

「北翔大学らしさ」

人に優しく地域と共に歩む大学

「スローガンとステイトメント」

[スローガン]

「優しさを 優れた力に」

[ステイトメント]

人を元気づけたい
人の心身の健康を守りたい
人の暮らしを彩りたい
人の成長を支えたい

ここに集うのは
人々と向き合い 自分とも向き合い
優しさを形にする力を
身に付けたいと願う仲間たち

北翔大学の使命は
その頼もしい「優しさ」を
ひとりの人間としての
価値ある「優れた力」に高めあうための
学び舎でありつづけること

誰もが抱える「憂い」に
しっかりと寄り添う「人」
「優」という字の成り立ちに
いま あらためて想いを馳せるとき

優しさを 優れた力に

他者とともに 自分らしく
同じ時代を力強く翔けていくために

北翔大学

目指すビジョン

**1 私たちは
人に寄り添い支える人を育てる大学を目指します**

私たちは、学科の専門性や特性を生かした教育指導、学生指導を通じて一人ひとりの共感力の養成に努めていきます。科学技術の発達、AI化が進む中で、人や社会に寄り添い、人と共に考え、より良い答えを導き出すための知識や技術を身に付けた人材を育成することこそが建学の精神に基づく教育の理念の具現化です。人と人が関わりお互いを認め合い協力した学びや取り組みで人に寄り添い支える人を育てていきます。

**2 私たちは
多くの視点を融合し、新たな価値を創造する大学を目指します**

北翔大学にはたくさんの専門分野があります。そしてそれぞれの専門分野の中にはさらに多くの視点があります。実践的経験に基づく深みや厚みのある視点、若い感性だからこその突き抜けるような視点。優れた専門性や独自の視点を教職協働にとどまらず「教学（教員と学生）協働」により融合させていくことで「新たな価値」を創造する大学にしていきます。

**3 私たちは
魅力を「チカラ」に変える大学を目指します**

人にはたくさんの魅力があります。その人の周りにもたくさんの魅力を持った人がいて、物や場所があります。そして、その魅力に気づいていない人もたくさんいるはずで、私たちはそうした魅力を見逃さず、大切なものと捉え、学生や地域との対話を重視し、それぞれの目的の実現に向けて協働で取り組んでいきます。私たちはそれぞれの「魅力」をそれぞれの「チカラ」に変えていきます。

**4 私たちは
学生の「夢中」を応援する大学を目指します**

私たちは学生の「夢中」を応援します。私たちは、学生一人ひとりが夢や目標を持ち、北翔大学でその実現に向けて夢中になって取り組んでほしいと願っています。夢中になって取り組むことで、今は気づかない良さや大切なこともやがて社会に出たときに自分の力になっていることに気づくことがあるでしょう。そのために私たちは個人として、担当部門として、常に「何をなすべきか」「どうあるべきか」を基準として行動していかなければなりません。相手を思いやり、自分の役割を自覚しながら、学生が夢中になれるための諸条件を整えていきます。

**5 私たちは
100年つづく大学を目指します**

私たちは急激に変化する社会において、求められる課題を正しくとらえ「人」を大切にしながら取り組んでいきます。そのためには大学としての安定的な継続が必要であり、強固な経営基盤と機動的で効率的な組織が不可欠です。これらをしっかり整え、理事会の決定に基づき教職員一人ひとりが高い意識を持って最大の能力を発揮していきます。こうした私たちの姿勢＝「北翔らしさ」を発揮しながら100年先もありつづける大学を目指します。

**6 私たちは
地域のニーズに応え貢献する大学を目指します**

私たちは地域社会の様々なニーズを把握し、北翔大学が持つあらゆる資源を最大限に活用してそれに応え、学生と教員と事務職員が一体となって地域貢献に取り組み、地域と共に成長していきます。そのためにも大学の情報を公開し、地域の方々に北翔大学のことを今以上に知っていただくとともに活用していただきます。

**7 私たちこそ
北翔大学のファンであり続けます**

私たち教職員は、一人ひとりが「北翔大学の教職員」としてあらゆる場面で多くの人と関わっていきます。学生や保護者の皆様、地域や大学関係の方々、お取引先などに対して、私たちはいつでも・どこでも・誰もが「北翔大学らしく」対応できるようにありたいと願っています。私たちは建学の精神や教育の理念を常に意識し北翔大学人としての自覚をもって行動していきます。

第 2 部

- ◆ コロナ禍対策・4つの重点項目
- ◆ 重点項目Ⅰ 教育・研究
教育充実計画・研究推進計画
- ◆ 重点項目Ⅱ 学生支援
学生生活支援計画・キャリア支援計画
- ◆ 重点項目Ⅲ 管理・運営
経営基盤安定計画・キャンパス整備計画・
入学者受入れ計画・大学広報計画
- ◆ 重点項目Ⅳ 地域連携
地域連携計画・地域貢献計画

第4期中期計画は、新型コロナウイルス感染症への対策を徹底していくことを前提として、所要の施策を推進していきます。

＜新型コロナウイルス感染症に対する重要項目＞

- ① 学生、教職員等の感染防止対策を徹底します。
- ② 感染状況によらず、教育・研究等が確保できるICT環境の改善・整備を実施します。
- ③ 経済的に困窮する学生が学業を続けられるよう、国などの支援を補完する支援体制を整備します。

4つの重点項目

1 教育・研究

- ・建学の精神に掲げる「自立できる社会人」を育成していくため、専門知識と教養をバランスよく身に付けられるよう、学生本位の教育を徹底していきます。
- ・一人ひとりの学生が持つ強み、学科の持つ強み、そして大学の持つ強みを対話を通して明らかにしながら伸ばしていきます。それぞれの強みを融合させることで新たな価値の創造につなげていきます。
- ・学生への教育指導の基礎となる教員の研究活動の活性化を進めていきます。また、研究推進のための制度や経費、研究時間の確保や事務的支援体制も整えていきます。
- ・学修成果の可視化のPDCAを実現します。また、学生が自らの学びを明確に描き、主体的・意欲的に学ぶことができる新たな学びの仕組みを構築していきます。

2 学生支援

- ・すべての学生が入学してから卒業に至るまで、安心・安全で心地よく学び、活動でき、有意義な学生生活を送ることができるよう多面的な支援を充実させていきます。
- ・施設設備の整備やキャンパスの美化など環境面を整備することで快適な学生生活を支援していきます。
- ・学生が自らの目標に向かって安心して学ぶことができる経済的支援や学びの先の夢・目標の実現のためのキャリア支援を充実させていきます。
- ・こうした多面的な支援の仕組みを整備充実させることで、学生一人ひとりの満足度を高めていきます。

3 管理・運営

- ・ガバナンスコードを踏まえて、永続的に安定した運営に努めていかなければなりません。役員、教員、事務職員が一体となって高い意識を持ち、理事長、学長のリーダーシップにより教員と事務職員が持てる能力を十分に発揮し教学改革や大学運営の改善に努めるとともに情報を積極的に公開し、社会的責任を果たしていきます。
- ・大学を安定的に運営していくためには学生の確保と同時に教員と事務職員の資質の向上が不可欠です。効果的なSD活動を計画的に実施し、教員と事務職員一人ひとりが「北翔らしさ」を発揮できるような意識を醸成していきます。
- ・「北翔らしさ」を発揮できる意識を学部学科や事務局の構成員が共有し、学生への指導やサービスなど学務運営や各種業務に取り組みます。教員-事務職員-学生が一体となって「北翔らしさ」を発揮していきます。

4 地域連携

- ・北翔大学が持っている多くの資源（教員の持つ知的資源や大学施設等の物的資源、教員と事務職員や学生の人的資源）を活かして多様な地域貢献活動を展開していきます。また、地域連携プラットフォーム構想に積極的に参画するなど、地元江別市や他の自治体、各種団体や他大学等と連携して主体的に活動していくことで北翔大学の社会的価値や信頼度を高めていきます。
- ・地域貢献では、地域のニーズを把握するとともに本学の特長を効果的に発揮できる企画やイベントを提供できるように、特色ある教育分野（学科）と地域のニーズをマッチングさせて地域に提案していきます。
- ・地域貢献活動を通して地域の皆さんに北翔大学への理解を深め身近に感じてもらい、地域や社会から応援してもらえる大学を目指していきます。

重点項目Ⅰ 教育・研究

教育充実計画

1 学生の主体的で意欲的な学修の支援

- ・ 学生一人ひとりの個性や将来像・目標を尊重し、対話を交えた教育を通して個々の強みを育みます。
- ・ 社会で必要とされる専門知識や技術を身に付けた人材へ育成します。
- ・ 学科や学年の枠を超えた、教員と学生の共同研究や学びを促進し、学生の成長や大学の強みを伸ばします。

2 学生本位の学修の実現

- ・ どのような人材へ育てるのか、そのためにどのような教育課程を用意しているのか、ここで学ぶことを希望する受験生に何を求めるのかを再確認します。
- ・ アセスメントテスト結果を含めた学修成果を可視化し、教育の質を保証するためのPDCAを実施します。
- ・ 学生自身が学びの目的と自らの到達度を確認し、向上心を持って学び続けることができるよう、授業科目の評価の指標を明確にします。
- ・ 学生がディプロマ・ポリシーの達成に向けて計画的に履修できるように、授業科目の編成を体系的にするためのナンバリング制度を導入します。
- ・ 時代に合わせた学生指導や授業への改善をはかる機会として、効果的なFD活動・研修を実施します。
- ・ シラバスのチェックを強化します。

3 教職課程の質の向上

- ・ 学校現場における課題に積極的に取り組む、国や地域が求める教員を養成します。

4 図書館オンラインサービスの充実

- ・ オンラインで利用できるサービスを充実させるため図書館ホームページを整備し、図書館外からの利用を支援します。

研究推進計画

1 科学研究費・外部資金の獲得

- ・ 教員の科学研究費をはじめとする外部資金の獲得を支援し、研究推進を図ります。

2 研究活性化のための条件整備

- ・ 社会のニーズに対応する、学科をこえた教員間共同研究の促進を図ります。

3 研究成果の登録推進とオープン化支援

- ・ 「北翔大学学術リポジトリ」への研究成果の登録を推進し、オープン化を支援します。

4 北方圏生涯スポーツ研究所の研究体制整備

- ・ 研究推進に向けたデータを整理し、蓄積していきます。

5 スポルクラブの充実

- ・ 北方圏生涯スポーツ研究所の目的を踏まえてクラブ事業の検証を行い、事業内容の改善・充実を図ります。

重点項目Ⅱ 学生支援

学生生活支援計画

1 学生満足度の向上

- ・退学理由の分析や個々の個性や生活情報等から、退学防止策の強化を図ります。
- ・施設設備や学修環境整備に対する学生の要望（学生生活調査や授業評価、卒業生アンケート等の活用）を検証し、施設設備計画に反映していきます。
- ・図書館に対する学生の要望を検証し図書館運営に反映していきます。

2 支援体制の充実

- ・学生の挑戦に対する支援制度や努力の結果に対する顕彰制度の創設、経済的に厳しく優秀な学生への支援等により、学びへの活力に繋がります。
- ・多様な背景や悩みを抱える学生に対し、入学前から卒業までの切れ目のないサポートをおこないます。

3 課外活動支援の整備

- ・本学の課外活動支援の現状を検証し、効果的な支援内容の整備に向けて検討します。

4 学生・保護者・大学の三者連携

- ・大学と保護者が連携・情報を共有して学生支援に努めます。

5 大学スポーツ協会（UNIVAS）加盟に伴う学生支援の整備

- ・大学スポーツ協会（UNIVAS）の取り組みを参考に、本学のスポーツ系学生団体所属学生の支援の充実に努めます。また、UNIVASの持つ情報を学内関係者へ提供し共有していきます。

キャリア支援計画

1 就職・進路支援の強化

- ・教員・公務員・企業等の採用試験対策を充実・強化します。
- ・就職に有効な資格・免許取得のための対策講座や指導を充実します。
- ・専門分野で学ぶ学生に対し、職業の魅力を伝える機会を用意するとともに、受入れ企業の拡大を図ります。
- ・卒業生、就職先企業からの情報（アンケート結果）を踏まえた支援内容の改善に努めるとともに、過年度卒生を含めた支援の充実を図ります。

2 キャリア教育改革の推進

- ・就業力の養成をはじめとする、社会人基礎力及び実践力の向上を図ります。
- ・起業する魅力や成功事例、方法等についての講座を開設し、起業を目指している学生を応援します。

3 教員採用対策の強化

- ・教員採用検査に向けた対策講座の充実、採用自治体の拡大を図ります。

4 継続的な支援体制の構築

- ・教員として活躍している卒業生や目指している卒業生を応援し続けます。

重点項目Ⅲ 管理・運営

経営基盤安定計画

1 財務基盤の強化

- ・収入に応じた支出となるような予算編成とし、財務基盤の安定を図ります。
- ・施設設備の整備をはじめとする各事業は、可能な限り補助対象事業であるか、対象年度であるかを踏まえた計画を策定し実施します。
- ・目的に合わせた特定資産を準備し、経営基盤の安定を図ります。
- ・学生納付金以外の収入として、資産の有効な運用に取り組むとともに卒業生等本学関係者を中心とした寄付金の募集を開始します。

2 内部質保証への取り組み

- ・理事長は適正なリーダーシップを発揮します。
- ・学長は理事会の付託に応え教学運営にリーダーシップを発揮します。
- ・学長の定める具体的計画を円滑に達成するための運営体制を整備します。
- ・具体的計画の達成状況についてのPDCAサイクルを確立していきます。
- ・教育の基本情報や法人の財務情報等、社会が必要と考える情報を適正に公開します。

3 教職員の資質向上

- ・教員や事務職員、各部門が同様に「北翔大学らしさ」を発揮できるような意識の醸成及び共有に努めます。
- ・教員と事務職員の就業条件を整え、健康管理と意欲の向上を図ります。
- ・職員の採用や昇任の基準を明確にし、意欲的な事務職員の育成に繋がっていきます。
- ・事務局の業務や体制について見直し、効率的な事務局業務の推進を図ります。
- ・各部門の総合力を高めるための、事務職員対象の研修を実施します。

4 適正定員と教員組織編成の検討

- ・教育水準を維持向上できる教育組織の再編成や適正な定員設定について検討します。

キャンパス整備計画

1 キャンパス整備のグランドデザイン

- ・キャンパス全体の中長期的な整備のグランドデザインを策定し、計画的に推進します。

2 キャンパスライフを支える環境の整備

- ・全ての学生に優しく快適で通いたいと思える構内環境を整備します。
- ・全ての学生の生活に優しい厚生環境を整備します。
- ・学生が授業等に制限されず自由に研究や発表ができる場を確保し、学生の意欲・やる気を支援します。

3 学修環境の整備

- ・今後の高等教育の動向や遠隔授業を含めた効果的な教育の推進の視点から情報機器や環境の整備について検討します。

4 図書館利用環境の整備

- ・学生が使いやすく、安全で居心地の良い図書館を目指します。

入学者受け入れ計画

1 適正な入学者選抜の実施

- ・令和7年度入学者に対応した学習指導要領に基づく入試制度を検討・実施します。

2 効果的な学生募集活動の設計

- ・募集対象地域を全国から絞り込むとともに、高校生・保護者・高校・予備校等、対象者にあつた募集活動を検討・実施します。

3 社会人、留学生確保の対策

- ・社会人・留学生の受入れを可能とする環境及び学びの体制が整っているかを検証し、必要な改善を図ります。

大学広報計画

1 社会的評価の向上

- ・成果・実績、学生の活躍等を広く周知し、本学への信頼感や評価を高めます。

2 北翔大学のブランド化

- ・北翔大学の個性や強みを明確にし、より選ばれる大学を目指します。

3 大学スポーツ活動の広報

- ・スポーツへの取り組みや実績を積極的に発信し、認知度の向上に繋がります。

重点項目Ⅳ 地域連携

地域連携計画

1 連携事業の推進

- ・連携協定やこれまでの実績をもとに自治体や企業・団体との連携事業の継続、拡大に努めていきます。
- ・高大連携の基本を確認し、これまでの連携事業の検証と今後の連携について検討します。

2 スポーツ科学センターと地域連携センターとの共同事業

- ・相互広報による事業拡大や、スポーツ科学センターと地域連携センターの共同事業の実施について検討します。

地域貢献計画

1 地域の課題把握とニーズに対応した地域貢献活動（身近な大学へ）

- ・知的資源（教員の研究分野）、人的資源（学生や教職員）、物的資源（大学施設）を活用した地域イベントやボランティア活動を推進します。